

# がん患者への 緩和ケア導入のための 主治医必携ガイド



奈良県

# 目次

はじめに	・・・ P1
緩和ケアチーム編	・・・ P2
在宅緩和ケア編	・・・ P6
緩和ケア病棟編	・・・ P14

# はじめに

わが国では、緩和ケアという言葉は大きく誤解されてきました。すなわち、緩和ケアは積極的な治療ができなくなった末期がん患者の苦痛をやわらげるだけのケアと考えられてきました。今ではその考え方が誤りであるのは周知の事実であり、WHOもがん対策基本法においても、緩和ケアはがんの早期から、治療と併行して行うべきものであると明言されています。しかしながら、緩和ケアの導入が早期からおこなわれているとはいいがたいのが現状です。どうしても、緩和ケアは末期になってからというのが、医療者、県民がともに抱いている概念のようです。

## 緩和ケアを早期から

がん患者と家族のケアをトータルで考えていくと良い治療、それと併行して行われる良い緩和ケア、良い看取りが必要不可欠です。そして、良い看取りのためにはスムーズな緩和ケア導入が必要です。

スムーズな緩和ケア導入のためにこのガイドをぜひお役立てください。



# 緩和ケアチーム編

今まで緩和ケアは「積極的ながん治療をやめた末期がん患者の苦痛を和らげるための終末期に限定したものと認識されてきた」かもしれません。

しかし、緩和ケアは「がんのステージに関係なくこころやかからだの苦痛を緩和するケア」で、治療と同時に始めることができます。緩和ケアチームはがん治療中でもできるだけ普段に近い生活ができるように、こころやかからだの辛さを和らげ、また治療に向かっていけるように患者・家族を支えます。

## 緩和ケアチームの役割

それでは、緩和ケアチームの役割を挙げさせていただきます。

- 1) がん治療のサポート（副作用対策）
- 2) 症状緩和
- 3) 患者の心のケア
- 4) 家族のケア
- 5) 療養場所選択への対応  
（在宅緩和ケアや緩和ケア病棟転院）
- 6) 介護保険等の適切な説明と導入
- 7) 看取りの支え
- 8) 主治医やスタッフの支援

## みんなが持つ緩和ケアへの抵抗

しかし、患者・家族にすすめたとき、「私はそんなに悪いのか」と誤解された経験などから、「すすめにくい」と感じているのではないのでしょうか。そして、あなた自身が「緩和ケア」に抵抗を持っているのではないのでしょうか。

一番大切なのは、あなた自身が「緩和ケアはがん患者のからだやこころの苦痛を緩和するもの」「あなたが行っているがん治療がスムーズに進むことをサポートするもの」として認識し、患者や家族に「いつでも利用できるサービス」であるということを伝えることです。

## 緩和ケアチームに依頼するタイミング

では、緩和ケアチームに依頼するグッドタイミングとはどのようなときでしょうか。

- 1) がんと診断されたときの衝撃が大きい場合
- 2) 治療サポートが必要なとき
- 3) できるかぎり家で過ごしていきたいと考えている患者・家族の場合
- 4) 治療が根治目的でなくなったとき
- 5) 今後の療養先をどうするか考えたとき（選択肢の説明）
- 6) 疼痛コントロールが速やかに（1週間以内）行えないとき、鎮痛補助薬の使用を考えなければならないとき

## もう少し早いほうがよいが、どんな状態でも相談してください！

- 1) 予後は厳しいが少しでも家に帰してあげたいと考える場合
- 2) セデーション（鎮静）を考えるとき
- 3) オピオイドローテーションを考えるとき
- 4) 患者の想いをじっくり聴きだしてほしいとき
- 5) 現在の処方や対応でよいか迷うとき
- 6) 非常に対応が難しい患者の場合

患者や家族にとって、がんは非常に大きな衝撃です。それを主治医一人で抱え込むのはかなりつらいことでしょう。私たち緩和ケアチームは患者・家族はもちろん、あなた自身の力にもなりたいと思っています。

どんなときでも、「今のあなたを支援してくれるチームがあるので、一度話をしてみてもはどうでしょうか」と患者・家族に声をかけてみてください。

\* 緩和ケアチームのない施設の場合、お近くのがん診療連携拠点病院等の緩和ケアチームに相談してください。  
拠点病院外の医師からの相談もできます。

● 緩和ケア外来（奈良県がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携支援病院）

（平成25年1月現在）

病 院 名	問 い 合 わ せ 先	診 察 時 間	備 考
奈良県立医科大学附属病院 緩和ケア外来 外来棟2階	橿原市四条町840 0744-22-3051(代) (内線3360, 3361)	月～金：13時～17時 (祝祭日除く) *ただし、金曜日は再診のみ	完全予約制
奈良県立奈良病院 緩和ケア外来 精神科受付（1階）	奈良市平松町1-30-1 0742-46-6001(代) (内線2389)	木：13時～15時 (祝祭日除く)	完全予約制
天理よろづ相談所病院 緩和ケア外来	天理市三島町200 0743-63-5611(代)	金：9時～11時半 (祝祭日除く) *当院受診中の方に限ります。	完全予約制
近畿大学医学部奈良病院 緩和ケア外来 メンタルヘルス科	生駒市乙田町1248-1 0743-77-0880(代)	金：11時半～13時半 (祝祭日除く)	一度当院の担当外来 を受診、必要と診断 されたら 完全予約制
市立奈良病院 がん相談支援室 (地域連携室内)	奈良市東紀寺町1-50-1 0742-24-1258(直通)	水：13時半～15時 (祝祭日除く)	一度当院の担当外来 を受診、必要と診断 されたら 完全予約制
国保中央病院 地域支援センター	磯城郡田原本町宮古404-1 0744-32-8800(代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア病棟に入院を申し込んでいただくための外来 月・金：14時～17時</li> <li>・緩和ケア外来 火：午前（身体症状担当医） 木：午後（精神症状担当医）</li> </ul> (祝祭日除く)	完全予約制

# 在宅緩和ケア編

## 在宅緩和ケアはがん治療との併行が基本

在宅緩和ケアはがん治療と併行して行われなければなりません。

「在宅への移行」と考えると、治療が一段落してから、あるいは痛みや諸症状が緩和されてからと皆様は考えておられるのではないのでしょうか？

実際には治療の方法が進歩したので治療ができなくなっただけからのがん患者の残り時間は非常に短くなっています。治療ができなくなった時点では、平均すると約一ヶ月の時間しか残されていません。すなわち、治療が一段落してから、あるいは痛みや諸症状が緩和されてからの在宅移行では遅すぎるのです。

早期から在宅緩和ケアを導入していただき、治療と併行して在宅医療を行っていくと在宅移行はとてもうまくいきます。



## 在宅緩和ケアの役割

それでは、在宅緩和ケアの役割を挙げさせていただきます。

- 1) がん治療のサポート（副作用対策）
- 2) 症状緩和
- 3) 急変時の初期対応
- 4) 緩和ケア病棟入院のアセスメント
- 5) 患者さんの心のケア
- 6) 家族のケア
- 7) 介護保険の適切な活用（生活面でのサポート）
- 8) 看取りのささえ
- 9) 遺族のケア



# 解説

## 1) がん治療のサポート（副作用対策）

がん治療の副作用で食事が進まない、吐き気がおさまらないといったときも、在宅医がかかわっていると、患者さんや家族に病院への通院や入院といった負担をかけることなく軽快なフットワークで副作用対策を行うことが可能です。

## 2) 症状緩和ケア

症状緩和は在宅のほうが容易です。在宅にしていると患者さんは自宅で家族と一緒にいる安心感から、疼痛や諸症状を感じる閾値があがります。同じ、疼痛や症状で同じ薬剤を使っているとしても、在宅だと確実に症状が和らぎます。せん妄は家に帰るだけでおさまることも多いようです。それに加えて、奈良県の在宅医は施設ホスピスのない時代から、在宅緩和ケアを行っています。奈良県は全国一のがん在宅死率を誇っています。それを支えているのが奈良の在宅緩和ケア医たちです。その緩和ケアの知識とスキルは全国でも最も高い水準にあります。症状コントロールに難渋された場合はまず、在宅医に相談してみてください。

### 3) 急変時の初期対応

急変時に在宅医がかかわっていると、患者さんが救急車でいきなり来院したり、あるいはたらい回しになったりすることがなくなります。急変時は在宅医がまず、往診を行い、必要であれば、病院の先生方に連絡の上で、救急搬送を行っています。

### 4) 緩和ケア病棟入院のアセスメント

緩和ケア病棟で最期を迎えたいと考えられる方もおられます。奈良県の在宅医は、県内外の緩和ケア病棟と連携をとっています。在宅医がかかわっていると適切な時期に、緩和ケア病棟に紹介、入院することが可能です。

### 5) 患者さんの心のケア

在宅医療では患者さんの話を十分に聴く時間がありますので、心のケアも適切に行うことが可能です。

### 6) 家族のケア

在宅では患者さんだけではなく、家族のケアも大切です。在宅医療では家族にも十分な時間をかけて心身両面のケアを行っています。

### 7) 介護保険の適切な活用(生活面でのサポート)

在宅では介護、福祉職と連携して、上手に介護保険を利用し、生活面でのサポートをいたします。介護保険の主治医意見書を求められた場合、ぜひ在宅医にご紹介ください。

## 8) 看取りのささえ

自宅で最期までという希望をもたれる患者さんのほとんどが、問題なく最期まで家で過ごされます。24時間対応も奈良の在宅では充実しています。

## 9) 遺族のケア

遺族のケアも視野に入れて日常のケアを行っていますので、遺族ケアも充実しています。

## 在宅緩和ケアへ紹介するグッドタイミング

では、どの時点で患者さんを在宅に紹介していただければよいのでしょうか。

- 1) 抗がん剤治療がサードラインに入った時点、あるいはセカンドラインの抗がん剤が効きに弱くなってきたとき
- 2) 疼痛コントロールでオピオイドの使用が必要になったとき
- 3) 全身倦怠感、食欲不振に対して、ステロイドの投与が必要になったとき
- 4) 初診時に治療も難しいような症例の場合は、できる限り早い段階で
- 5) 介護保険のことを患者さんや家族から質問されたとき

## 奈良県の在宅緩和ケアは充実しています

奈良県では、すでに多くの先生方が早期からの在宅移行、在宅への紹介を行ってくださっています。しかし、今、新たに出てきた問題は、せっかく先生方が早期の紹介を考えてくださっても患者さんや家族が「まだまだ在宅は早い」「まだまだ緩和ケアは早い」といって在宅移行を拒まれることです。

## 患者・家族が在宅緩和ケア導入を拒まれたら

そういった患者さんや家族に納得していただいて在宅移行をスムーズにおこなうにはどうしたらよいのでしょうか？

在宅移行が上手な先生はこのようにおっしゃっているそうです。

「緩和ケアは治療が終わってからではなく、治療の初期の段階から併せてやっていくものなのです。早期から緩和ケアを受けている患者さんは治療もよく効いて、長生きできるらしいですよ。」

というわけで、緩和ケアを受けるのは早ければ早いほうがいいのだけれども、そのためには在宅医に早期からかかわってもらうことが必要不可欠なのです。

## 安心して病院と在宅の二人三脚を

このようにおっしゃってくださる先生方からは、患者さんが非常にスムーズに、在宅に移行されてきます。どうか、参考になさってください。

早期から在宅医療と病院治療を併行していくと、患者さんと家族が医療から見捨てられたと思うことなく、安心して在宅に移行することができます。

上記のガイドラインがみなさまの参考になり、スムーズな在宅移行をしていただけるようになるようお願いいたします

在宅移行に関してのご質問・お問い合わせは「日本在宅ホスピス・緩和ケアネットワーク」までメールでお問い合わせください。

E-mail: [support@jhhpcn.com](mailto:support@jhhpcn.com)

件名を「在宅移行相談」にしてご送信ください

## ●奈良県のがん医療機能一覧

平成23年度に奈良県において実施した調査結果に基づき、県内診療所、訪問看護ステーション、薬局のがん医療機能一覧を掲載しています。

『がん医療機能一覧(診療所・訪問看護ステーション・薬局)』  
<http://www.pref.nara.jp/27099.htm>

# 緩和ケア病棟編

## 緩和ケア病棟とは

緩和ケア病棟は、積極的治療が困難となった、あるいは自らしないと決めたがん患者が、身体的、精神的症状緩和の治療を受けるための施設です。

ホスピスと聞くと、「最後の療養の場」というイメージが強いですが、それだけではありません。症状緩和が可能になると、退院し在宅に移行される方もおられますし、再度抗がん剤治療に挑戦される方もおられます。

## 緩和ケア病棟の役割

緩和ケア病棟の役割を列挙します。

- 1) 症状緩和を行う
- 2) 在宅ケアへの移行の準備
- 3) 在宅ケア施設との連携
- 4) 在宅患者のレスパイト  
(家族の休養のため一時的に入院すること)
- 5) 最後の療養の場の提供
- 6) 家族・遺族ケア

## いっごろ、緩和ケア病棟の情報を伝えるか

それではどの時点で、緩和ケア病棟の情報を患者、家族にお伝えしたらいいでしょうか。

再発や進行がんであると分かった時点で、ホスピスは積極的治療ができなくなった後の治療の場の一つであるという情報をお伝えすることが望ましいと考えます。患者、家族の立場からすると、治療が困難となってから今後のことを考えるのはあまりに時間が少なすぎます。

抗がん剤の治療が効いてがんが良くなるという希望も持ちながら、一方で抗がん剤が効かなくなったときのことも考慮に入れ、その時どうすればよいかについて考えておくことが現実的な対応です。



## 緩和ケア病棟へ紹介するときの注意点

緩和ケア病棟に紹介していただくときに注意していただきたいことを述べたいと思います。

- 1) 患者さんが自分の病気ががんであると知っていること、あるいは少なくとも治癒の難しい病気であることを知っていることです。なぜなら、自分の病気について全く知らない状態で入院していただいた場合、自分の置かれた環境に対し非常に不安感を覚え、スタッフ、家族とのコミュニケーションがうまくいかなくなるケースが多いからです。
- 2) 本人、家族が緩和ケア病棟の役割を理解し、入院を希望されていることです。緩和ケア病棟は新たながん治療の場ではなく、症状緩和をするところである、ということを知っておいて頂きたいと思います。
- 3) 家族、患者の希望を支えるような言葉がけをしていただきたいということです。患者、家族の思いとしては、抗がん剤が効かない状態になってしまった、そのうえ新しい環境に行かなければいけない、不安で絶望的な気持ちになっているかもしれません。その時主治医、スタッフからの「これからも向こうの主治医の先生といっしょにみるからね、安心してね。」「元気な顔を見せてくださいね。」などと言った言葉がけは、患者、家族に大きな勇気と安心を与えます。

## 奈良県の緩和ケア病棟は2か所あります

患者、家族が緩和ケア病棟に関心があるときは、緩和ケア病棟のある病院の緩和ケア相談窓口にご連絡するようお願いいたします。また、受診を希望された場合、紹介状と、画像などの検査データを持たせてあげてください。

### ● 緩和ケア病棟のある病院

(平成25年1月現在)

病院名	問い合わせ先
国保中央病院	磯城郡田原本町宮古404-1 緩和ケア電話相談窓口(地域支援センター内) 0744-32-8800(内線2101)
西奈良中央病院	奈良市鶴舞西町1-15 地域連携室 0742-43-3333



× ㊦

# がん患者への緩和ケア導入のための主治医必携ガイド

---

編集 奈良県がん対策推進協議会 緩和ケア・在宅医療部会

発行 奈良県医療政策部 保健予防課

奈良県奈良市登大路町30番地

TEL : 0742-27-8928

FAX : 0742-27-8262

2012年3月発行 初版

2013年3月発行 第二版

---

